

FUKUCHI

Public
Relations

No.116
August

広報ふくち



昭和16年12月、日本軍の真珠湾攻撃があったのは、私がこの家に嫁いで間もない頃のことでした。主人（貴方達の祖父）に赤紙（召集令状）がきたのは、明くる年夏、それからの私は、戦地に持たせる千人針を作って貰うのに方々かけずりました。

千人針とは、晒木綿に千人の人々から赤い糸で結び目を作って貰うのです。その頃は町のあちこちに布を持った人が立っており、通る人ごとに縫って貰い、人々も皆協力しました。死線を越えるといって、穴開きの五銭玉を縫いつけたりしました。又職場では皆さんから目の丸に寄せ書きをしていただき、武運長久。一死報國・忠君愛國・応召万歳等の字で埋めつくされていました。

応召前夜、私は泣きの涙でした。翌日千人針と寄せ書きの目の丸を持ち、門を出て私たちに向い敬礼をした主人の顔は、私達の家のものではなくお国の者になっていました。

【出典】方城かたりべ
「孫にきかせるおばあちゃんの話」
白石鶴代（一部抜粋）

2015

8

戦後70年特集
「遺されたものたちの回顧」